

令和5年度 第2回富山県総合教育会議

日時：令和6年2月12日（月・祝）16:30～17:30

場所：県庁4階大会議室

次 第

1 開 会

2 知事挨拶

3 議 事

（1）県立高校教育振興検討会議について（報告）

（2）公私立高等学校連絡会議について（報告）

4 閉 会

< 配付資料 >

資料1 県立高校教育振興検討会議の検討状況

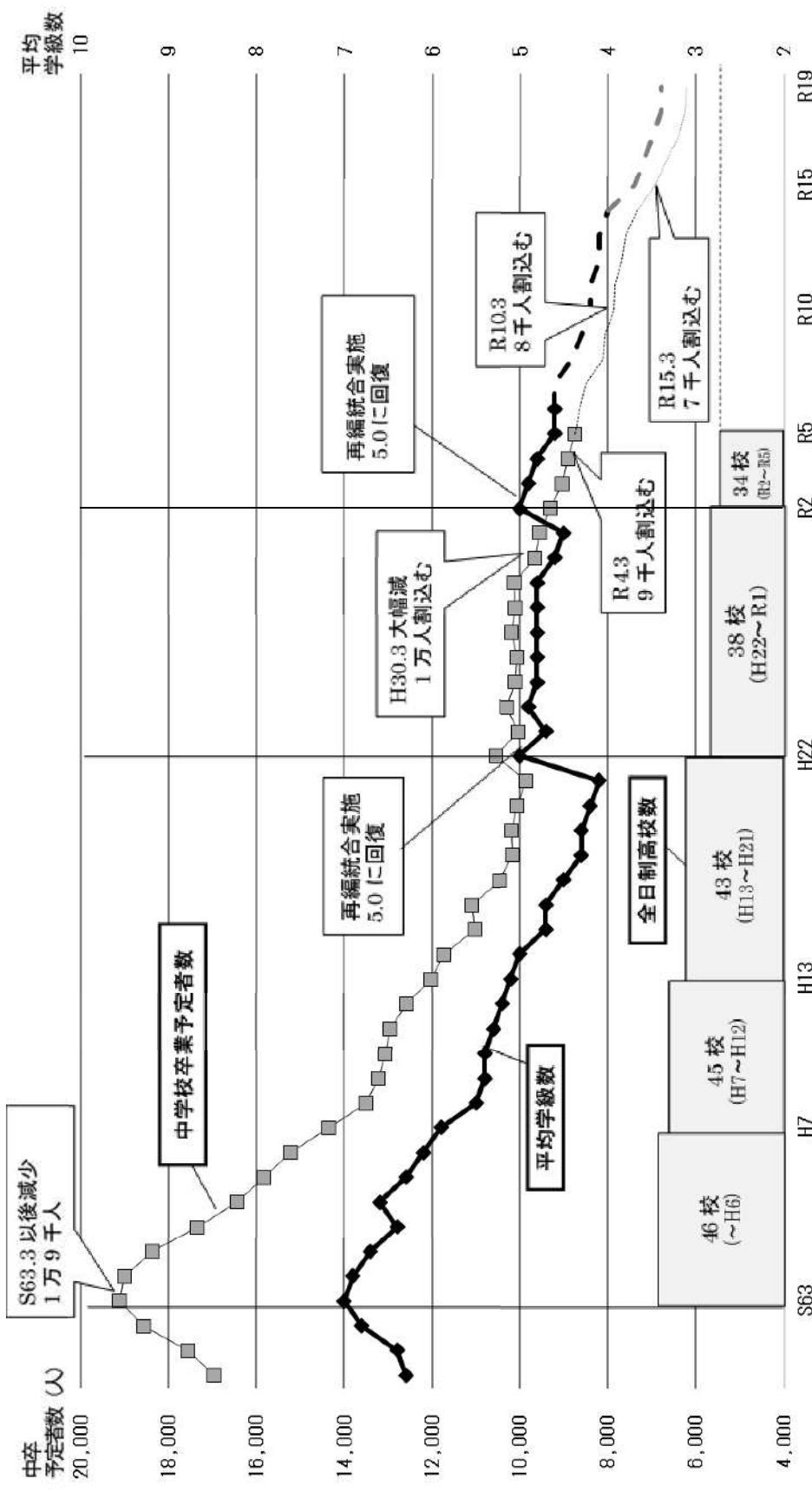
資料2 県立高校教育振興に関する市町村との意見交換会、県立高校教育振興フォーラムでの主なご意見

資料3 令和5年度第2回富山県公立高等学校連絡会議の開催結果

県立高校教育振興検討会議の検討状況

令和5年度 第2回富山県総合教育会議

今後の中学校卒業予定者数の推移



※ 全日制高校数は1学年を募集している学校数
 ※ 中学校卒業予定者数の算出について、S63年～R14年は学校基本調査(各年5月1日)を基にした生徒数、R15年～R18年は県の人口移動調査(R4年10月1日)に基づく推定値
 ※ R7年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を70.8%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み
 ※ 中学校卒業予定者数は、記録が残るS27の21,176人以降、S38の31,995人が最大数となっている。

今後の県立高校のあり方について

○令和3年8月～令和5年5月 令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会（9回開催）

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」では、魅力ある高校教育を通じた「ウェルビーイングの向上～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～」を基本理念とし、3つの県立高校づくりの目指す姿を掲げ、その実現に向けて、6つの観点から、具体的な方策について取り組むことが必要とされた。

また、「今後の再編計画については、今後も中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれることから、『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会』や総合教育会議での議論を踏まえ、県立高校の学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、令和5年度以降、できるだけ速やかに新しい検討の場を設け、丁寧に検討していく必要がある。」とされた。

※「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」（令和5年5月策定）
<https://www.pref.toyama.jp/3003/kurashi/kyouiku/gakkou/arikata/arikata.html>



○令和5年6月～**現在** 県立高校教育振興検討会議

- (1) 県立高校の再編に関する学校規模・基準に関すること、(2) 県立高校の学科・コースの見直しに関すること、(3) 様々なタイプの学校・学科等に関することについて検討。

今年度中に、各検討事項の基本的な方針について提言をとりまとめられる予定



○令和6年度～

総合教育会議

検討会議の提言を受け、知事が主宰する総合教育会議において、再編の基本方針や新しい学科・コースの開設等について検討が進められる予定。

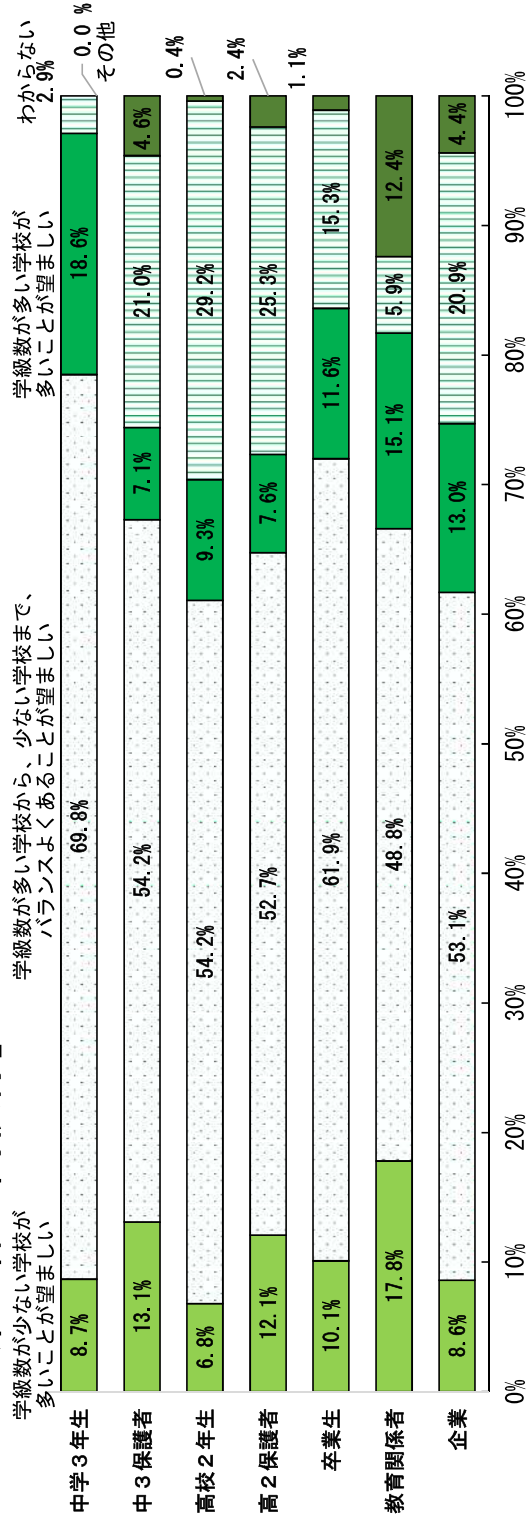
県立高校のあり方に関するアンケート調査結果

・調査時期：令和4年8月22日(月)～10月7日(金)
 ・調査対象：中学3年生、中学3年生保護者、高校2年生、高校2年生保護者、卒業生、教育関係者、企業

○「高校選択の際に重視すること」※回答数が多かったもの (%)

	中学3年生	中3保護者	高校2年生	高2保護者	卒業生
・中学校における自分(お子さん)の成績	52.4	61.5	51.5	58.6	48.7
・自宅からの距離や時間などの通学条件	41.8	58.5	37.6	46.5	41.8
・設置されている学科やコースの学習内容	38.9	48.1	34.2	44.9	34.9
・学校の校風、イメージや伝統	35.1	27.9	17.0	24.0	21.2
・学校行事や部活動の状況	29.9	18.8	20.3	16.1	27.5
・大学などへの進学先や進学者数	24.4	30.2	15.9	19.0	18.0

○「望ましい県全体の高校像」



県立高校配置の方向性の考え方

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

報告書のアンケート調査結果では、「高校選択の際に重視すること」として、「中学校における成績」に次いで「通学条件」や「学科やコースの学習内容」の回答が多かったことから、様々な学科構成を有する県立高校が県全体において適所に配置されるよう、学科・コースの見直しを含め、多様な視点から検討することが重要である。

また、「望ましい県全体の高校像」として、「学級数が多い学校から、少ない学校までバランスよくあることが望ましい」の回答が多かったことから、集団の中で多様な考えに触れる機会が多く、様々な種類の科目や部活動等を設置できるため選択の幅が広がりやすい「中～大規模校」と、生徒一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい「小規模校」の双方をバランスよく配置することが望ましいと考えられる。

以上のことから、県立高校は、生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置することが望ましい。また、その実現にあたっては、生徒が学びたい、学んでよかったと思える魅力ある高校づくりを目指すとともに、社会の変化、産業界のニーズを踏まえ、再編統合や学科・コースの改編に取り組みことが望ましい。

県立高校の目指す姿

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

魅力ある高校教育を通じた「ウェルビーイング」の向上
～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～

目指す姿

未来を切り拓く
ことができ、確
かな資質・能力を
身につける、学
び
の
質
の
向
上

協働的な学びや
多様な価値観に触れ
ることができ、生
徒
の
幅
広
い
選
択
肢
の
確
保

多様化する社会の
形成に主体的に関
わる力を育成し、社
会
の
ニ
ー
ズ
を
踏
ま
え
た
教
育
体
制
の
整
備



【令和の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた6つの方向性】

- I. 各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進
- II. 地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進
- III. ICTの活用による学びの充実の推進
- IV. グローバルに活躍する生徒の育成の推進
- V. 魅力と活力ある学校づくりに推進するための教育環境の整備
- VI. 配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討

学びの改革 《とやまの新しい教育の創造》 + 新たな学び・多様な学び・未来を拓く学びの場を目指して

【学科構成】

職業系専門学科単独校

- ・多様な小学科を設置

総合選択制高校

- ・複数の学科の枠を超えた学びを実践

普通科系高校等

- ・教科等横断的な学びを実践
- ・特色ある学びができるコース等を設置
- ・地域の特性を生かした学びを実践

総合学科設置校

- ・普通科と職業系専門学科の両方を学べる科目を開設



【学校規模】

中～大規模校

- ・幅広い学びの選択肢を確保するため、多くの学科や科目を開設する高校
- ・設置学科の一部に特色あるコース等を導入する高校
- ・特色ある学びに必要な科目を開設する高校

小規模校

- ・専門的な科目に特化した教育課程の作成等の工夫により、小規模でも運営が可能な高校
- ※小規模のメリットを最大限に生かす工夫が必要

- ・様々なタイプの学校・学科の検討（全国募集、国際バカロレア認定校、中高一貫教育校、外国人生徒に係る特別定員枠等）

学科・コースの検討

検討会議における主なご意見

<p>農業科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県にとっては、農業、水産はとても大切。もう一つの特徴は工業県ということ。こういう分野で全国からうらやましく思われるような高校のあり方をデザインするべき。 ・農業科や水産科では、関連する就職や進学者の割合が低い。「このカリキュラムのままでもいいのか」までを含めて検討していかなければならない。 	<p>工業科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業系では、工業デザインなど女性が入ってももらえるようになる。工業系で、工業デザインにおいてデザインで付加価値を上げていくことを、県内でできるようにしていくことは人材育成の意味においても価値がある。 ・工業科に細かい、いろいろな科があっても「この先には何が待っているのだろう」とよくわからないうところがある。一括募集や学科の名称変更があれば「行ってみよるか」という気持ちになるのではないか。
<p>普通系学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の進展と社会の変化により、高校教育にデータサイエンスを取り入れる重要性が増している。文系理系に関わらず応用されるデータサイエンスは、生徒たちの分析力や問題解決力を育成する。 ・社会のニーズに鑑みるとデータサイエンスコースやグローバルコースは、まさに生徒が学びたいと思え、高校卒業後の進学や実社会で生かせるもの。しかし、設置する場合は、コースの特色をしっかりと考え、PRしていくことも大切。 	<p>商業科・家庭科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業科の中には、進学者が生徒の7割～8割となっている学科もある。普通科の中のコースとして、特色ある教育内容を残していく方策もあるのではないか。 ・職業科でどのような力が身につくのか、入学してみないと分からないということだが、子どもたちにとっては不安であり、最初から選ぶことができないう生徒が増えている。子どもたちが自分の好きなところで学び、力を伸ばすことができる多様な学科が県全体にバランスよく配置されるとよい。

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」より

総合学科：全県的な視野に立って、総合学科のある学校の配置バランス、定員設定等の検討

水産科：中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討

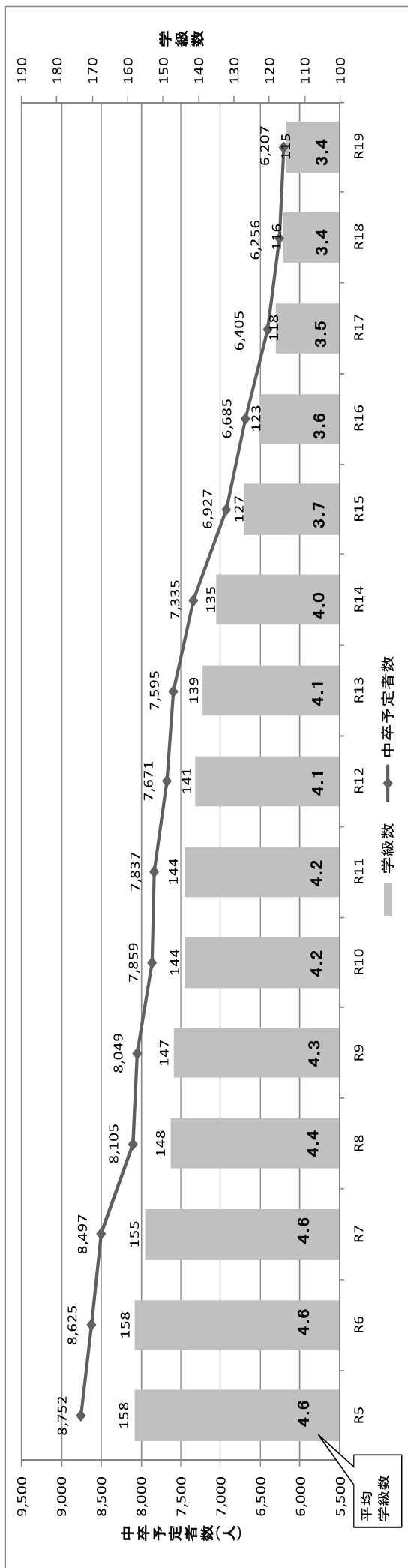
看護科：県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

福祉科：県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

様々なタイプの学校・学科等の検討

	全国募集	国際バカロレア (IB) 認定校	中高一貫教育校	外国人生徒に係る特別入学枠
<p>概要</p>	<p>本県における県外生徒の受入れについては、県立高校入学者選抜において、原則として、「本人及び保護者が本県内に居住している、または近く居住することが確実であること」を志願資格としており、生徒単独の移住を前提とした受入れは行っていないのが現状。</p>	<p>国際バカロレア (IB) とは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。</p>	<p>中高一貫教育は、生徒や保護者が、これまでの中学校・高等学校に加えて、6年間の中高一貫教育も選択することができるようにすることにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年4月から制度化されている。</p>	<p>本県では、平成23年度実施の県立高校入学者選抜より、入国後6年以内の外国人生徒から申請があった場合、検査問題の漢字にふりかぎりを付すこととし、日本の生活が短いことで、日本語での受け取りが困難である生徒に配慮している。外国人生徒に係る特別定員枠については設定していない。</p>
<p>検討会議における主なご意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺平高校の郷土芸能部は素晴らしい成績を収めているし、スキ一部はオリンピック選手を輩出している。寄宿舎もあるので前向きに検討してほしい。 ・寄宿舎では週末や長期休業期間に対応できないならば下宿という方法もあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・莫大な人材投資が必要であり、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではない。慎重に議論すべきではないか。 ・専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算等を考えると県立高校では設置が難しいのではないかと。グローバルコースのようないところ、英会話力を高めながら探究活動に力を入れる方が適しているのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校などで特色を持たせるのはよい。 ・都会ではメリットがあるようだが、富山県では少し事情が違うのではないかと思っていた。しかし、子どもたちの選択肢を広げるためには検討する価値はある。 ・中高一貫教育校にはメリットとデメリットがあると思う。もし、設置するのであれば富山県ならではの魅力が詰まったコンセプトを考えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校に行きたいと思う外国籍の生徒には、その機会を保障してほしい。県立でも私立でもよいので、その仕組みを県でつくりたい。 ・外国人生徒を受け入れる場合の教育環境において、特別な教育課程の編成や人員の確保、その他の支援体制の整備などが十分でない限りは、入学した生徒に十分な教育を行うことができないことが課題としてある。

学校数(34校)を維持した場合の平均学級数の見込み



年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
中卒予定者数*1	8,752	8,625	8,497	8,105	8,049	7,859	7,837	7,671	7,595	7,335	6,927	6,685	6,405	6,256	6,207
学級数*2	158	158	155	148	147	144	144	141	139	135	127	123	118	116	115
前年度比	▲5	±0	▲3	▲7	▲1	▲3	±0	▲3	▲2	▲4	▲8	▲4	▲5	▲2	▲1
R5年度比	基準	±0	▲3	▲10	▲11	▲14	▲14	▲17	▲19	▲23	▲31	▲35	▲40	▲42	▲43
平均学級数	4.6	4.6	4.6	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.0	3.7	3.6	3.5	3.4	3.4
R5年度の在籍学年	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳

*1 当該年度の学級数の算定基礎となる、前年度の中学校卒業予定者数を記載。

R6～R14は学校基本調査(R5.5.1)の在籍者数、R15～R19は人口移動調査(R4.10.1)に基づく推定値。

*2 中学校卒業予定者数をもとに、法律に基づく1学級40人を前提として、また、R5年度以降の公私比率を70.8%と仮定して、学級増減数を算定し、令和5年度を基準として算出。

現状(平均4.6学級)を維持する場合、R14年度までに4～5校、R19年度までに9～10校の減が必要となる。

県立高校再編の必要性

検討会議における主なご意見

- ・平均的にダウンサイズしていただくだけでは、子どもたちの幸せの総量も減る。それぞれの高校の魅力が高まり、子どもたちの幸せの総量が膨らむような再編であればよい。
- ・教育目的や教育目標について再度確認し、それぞれを達成するための効果的な教育方法にはどのようなものがあるか、また、それぞれの教育方法や扱う教材に関する適正規模のクラスについて検討できればよい。
- ・報告書に「高校生ファーストで考えるべきではないか」という意見が記されていたが、そういうことを念頭に置きながら、今後10年、20年先の富山県の教育がどうあればよいかを議論していきたい。

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

令和2年度の県立高校再編は令和8年度を見通して実施され、生徒の学習環境改善において充実が図られた。しかしながら、「県立高校再編の基本方針」(H29.9.7)において、別途、対応を協議することとされた令和9年度以降の中学校卒業予定者数の推移を踏まえると、現在の学校数を維持した場合、多くの県立高校が小規模校となることが予測される。また、令和2年度の再編統合検討時の想定を超える、急激な中学校卒業予定者数の減少が推定されることから、高校再編については、これまで以上に長期的な展望に立つことも必要である。

再編に関する基準(例)

※第3回検討会議資料より抜粋

1	<p>令和2年度の基準 学校規模が、<u>1学年4学級未満又は160人未満の規模の学校</u>については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。</p>
2	<p>基準を引き下げる 学校規模が、<u>1学年3学級以下又は120人以下の規模の学校</u>については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。</p>
3	<p>基準を引き上げる 学校規模が、<u>1学年4学級(5学級)以下又は160人(200人)以下の規模の学校</u>については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。</p>
4	<p>学校規模の基準を設定しない(県立高校配置の方向性のみ) ・生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができることを目指し、様々な学科構成や学校規模の学校をバランスよく配置する。 ・学校規模に関する基準は設定しない。</p>
5	<p>志願状況や欠員状況 (例)入学志願者数が3年連続定員に満たない高校で、今後も増加の見込みがない場合再編整備の対象とする。 (例)第1学年の生徒数が2年続けて一定の人数を下回った場合は再編整備の対象とし、2年連続でさらに少ない一定の人数を下回った場合は翌年度の生徒募集を停止する。</p>

検討会議におけるご意見

第3回検討会議において、再編に関する基準として5つの例などをご検討いただいたところ、「1学年4学級未満を検討対象とするこれまでの基準がよい」といったご意見と、「今後の大幅な生徒数の減少を想定し、（4学級以下等に）基準を引き上げるべき」といったご意見が多く、ほぼ同数であった。

また、「基準を引き下げ3学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。」といったご意見もあった。

(主なご意見)

- ・ 規模だけでなく、学科やコースなど県全体のバランスを見極め学校を配置することが必要。令和2年度の基準を前提とし、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよい。また、これまで通り規模の小さい学校から検討することが必要だろう。
- ・ これまで様々議論され、令和2年度の基準が設定されてきた。教員数の確保や生徒が部活動などで仲間たちとともに過ごしたという気持ちなどを考えての基準であったと思うので、この基準がよい。
- ・ これまで通りの基準または、引き上げがよいと思う。総合的な探究の時間では、生徒が自ら課題を見つけて探究することが求められる。このような多様な学びに応えていくためには、それなりの教員や学校規模が必要。
- ・ 教育の水準を考えると4学級は最低でも必要。基準を引き上げて幅広く検討する方がよい。その中で、小さい学校を全て統合するのではなく、地域の実情に応じた再編も必要になってくる。
- ・ 10年後、15年後を想定して検討する必要がある。基準を引き上げること志願状況や欠員状況も十分考慮できる。そういう柔軟性に富んだ考え方を持つべき。
- ・ 基準を引き下げ3学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。数の規模で全て判断するというのは違うと思う。
- ・ 基準を設けるのはどれも悩ましいが、志願状況や欠員状況を基準にすることについては慎重な検討が必要ではないか。定員割れが起こっていても、その学校・学科がなくなると、本当に困ることが起きてくるのではないかと思う。

再編検討の方向性

※第4回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿(素案)」より抜粋

○県立高校の目指す姿の実現に向け、再編統合や学科改編等により、魅力と活力ある学校づくりを推進するため、学びの質を向上し、教育体制を整備できるよう検討を進める。

また、生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための検討を進める。

○現在の学校数を維持した場合、今後、多くの県立高校が小規模校となることが予測されることが踏まえ、学校規模が、1学年4学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。

ただし、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、検討の対象としないことも考えられる。

なお、令和15年度以降の中学校卒業予定者数の推定値の急激な減少を鑑みると、さらに長期的な展望に立つて様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための高校再編を検討するには、学校規模が、1学年4学級以下又は160人以下の規模の学校についても再編統合の検討の対象とするなど、検討の範囲を広げるとも考えられる。

検討会議における主なご意見

- ・今ままでに経験のないほど子ども数が増え、圧倒的に減っていく中で県立高校の再編を議論するには、しっかりしたビジョンが必要。今回示されたビジョンは、子どもを中心とした視点に立つということが明確になっており、よい方向になってきたのではないか。
- ・小規模校、大規模校それぞれの良さがある。これが、子どもたちの選択肢になっていくとよい。
- ・再編検討の方向性に示された再編統合や学科改編等を一体的に検討していくという原案は、これまで議論を重ねてきたことが網羅されている。小規模校、中規模校、大規模校の役割と併せて様々なタイプの学校等についても検討を深めていけるとよい。
- ・小規模、中規模、大規模が偏りなく、子どもたちが通いやすいものになるとよい。
- ・少子化が進む中、高校再編は必要だと思うが、地域において子どもたちの教育環境を確保し、子どもたちが本来に自分でやりたいことができる学校へ行けるようにしてほしい。
- ・生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質を向上させるためには、1校当たりの教員数と生徒数の確保が重要。再編検討の方向性は、現行の教員配置等の規則制度において、生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質の向上を図ることを目指したものと見える。

(参考) 令和6年度 県立高校(全日制)の学校規模(第1学年募集定員) (平均4.6学級)

学級数 (学校数)	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区
8学級 (1)		富山工業 (工8 : 320人)		
7学級 (2)			高岡工業 (工7 : 270人)	南砺福野 (普4国1農1福1 : 250人)
6学級 (7)		富山 (普4探2 : 240人) 富山中部 (普4探2 : 240人) 富山北部 (普3工2商1 : 240人) 富山商業 (商6 : 240人) 富山東 (普6 : 240人) 阜羽 (普6 : 230人)	高岡 (普4探2 : 240人)	
5学級 (7)	桜井 (普3工1家1 : 200人) 滑川 (普2工1商1水1 : 200人) 入善 (普4農1 : 170人)	富山南 (普5 : 200人) 富山いずみ (総4看1 : 190人)	高岡商業 (商5 : 200人) 水原 (普2農水1商1家1 : 200人)	
4学級 (10)	魚津 (普4 : 160人) 上市 (総4 : 150人)	八尾 (普4 : 160人) 富山西 (普4 : 160人)	新湊 (普3商1 : 160人) 高岡南 (普4 : 160人) 小杉 (総4 : 150人)	砺波 (普4 : 160人) 石動 (普3商1 : 160人) 砺波工業 (工4 : 140人)
3学級 (6)	雄山 (普2家1 : 120人) 魚津工業 (工3 : 105人)	中央農業 (農3 : 76人) 福岡 (普3 : 120人) 伏木 (国3 : 105人)	大門 (普3 : 120人) 福岡 (普3 : 120人)	
2学級 (0)				
1学級 (1)				南砺平 (普1 : 30人)

県立高校教育振興に関する市町村との意見交換会、
県立高校教育振興フォーラムでの主なご意見

令和5年度 第2回富山県総合教育会議

1 県立高校教育振興に関する市町村との意見交換会(主なご意見)

令和6年1月18日(木)開催 【出席者】 <市町村側>市町村長、市町村教育委員会教育長
<県側>知事、副知事、県立高校教育振興検討会議委員、教育長ほか

検討項目	内容	ご意見
再編	ビジョン	教育がどうあるべきかがあって、そのあとに再編をどうするかということだと思う。(同趣旨他4件) 再編統合するメリットが見えてこない。(同趣旨他2件) 地域の高校にとって地域との関わりも大事な要素。知事には、地元のを愛する、地域の人を大事にする、そういったメッセージを発信してもらいたい。
	進め方	前回の再編を検証してほしい。 様々な地域の意見を取り上げていくべき。 コンパクトな富山県であっても過疎地域はある。過疎地域にある学校がなくなることには大きなしわ寄せにつながる。13の市町にある学校は残して、地域に根差した、地域の方に応援してもらおうような学校づくりをすることが大切。(同趣旨他2件) 地域の学校がなくなると寂しいが、どこかどこかを合わせて新しく1校つくるといっているのであれば、新しい一歩を踏み出せるといふ考え方で再編を進めることができるのではないかと。 (基本的な方針を)早々にまとめる必要があるのかと思っている。もう少し議論する時間が欲しい。検討会議の結論はもう少し先延ばしし、4月以降に再度議論してほしい。(同趣旨他3件) 全日制の話をしているが、定時制高校もある。どの市町村でも不登校の子どもたちが増えている中、高校全体のあり方を、今一度、大きく議論した方がよい。 15市町村すべてが会しての意見交換会の場の設定を高く評価する。この場に出てくる様々な意見をしっかりと検討し、反映してもらいたい。
基準	規模	1学年4学級未満、4学級以下と併記されているが、どのようにバランスをとるのか。もう少し明快にした方がよい。検討をお願いしたい。 1学年4学級未満または4学級以下という基準が示されたが、現在、小規模となっている学校規模は、これまで県教委が減らしやすい学校の学級を減らしてきた結果。そこを高校再編の対象にしようと思ってきたのではないかと不信感を覚える。 生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な学科構成や規模の学校を選択できるようバランスよく配置するという方針を踏まえていただきたい。各学区に多様な選択ができるようにすることは大切。(同趣旨他3件)

検討項目	内容	ご意見
基準	規模	富山県はコンパクトな県なので、新潟県や長野県とは全く違ってくる。富山市から周辺の市町村に通学する生徒がいてもよい。地域のバランスを考慮してほしい。
学科・コース	配置	ブロック（学区）の中で定員が議論されてきたが現実に合っていない。 工業高校等の生徒は、地元企業に就職して活躍している。各エリアでものづくり人材を育てていく機能が必要。その前提として、県全体でどのようなものづくり人材を育てていくのかというビジョンが重要だと思う。 富山県として特色ある地場産業、実業科を大切に考えていただきたい。 普通科以外の学科に進学した生徒が、その学科を選択した理由と卒業後の進路を資料として示してほしい。ニーズのある学科は残していきべきで、ニーズがないのであれば学科構成の検討を深めるべき。 砺波地区には土木系の学科がない。このあたりを整理しうえで再編の話に行くことが必要。
	魅力	特色ある学校づくりというが、その特色が出ていないように感じる。（同趣旨他1件） 特色ある学科・コースは地域との連携も考慮し、学びの環境が確保されることを期待している。 多様な選択ということについて、学科構成や学校の教育方針などにおいて多様化や尖ったものが必要。海外の大学との連携などを行いグローバル人材の育成、アントレプレナーシップの育成といった尖ったコース・学科ができればよい。
	全国募集	富山県の魅力ある学校に全国から来てもらおう全国募集や、オンライン授業という方法もある。 南砺平高校における全国募集を進めてほしい。
その他	学級編制	中学3年生の人数に応じた定員設定をしてもらいたい。昨年度の学級編制の議論を踏まえ、小規模校を残すために、他は減らせないからという理由で、これまでの再編統合によって複数の学科が設置された高校の学級の数を減らすということがないようお願いしたい。 中学校3年生の生徒数だけで学級編制を議論するのはいかがなものか。教育の望ましい姿とともに地域の将来像に真摯に向き合っていきたい。
	少人数学級	全国的な傾向でもあるように、1学級40人の基準を下げて少人数学級にするという働きかけはできないものか。学級数の削減は次の少しでも教職員の負担軽減を図るには、40人学級にこだわる必要はない。

2 県立高校教育振興フォーラム(主なご意見)

【富山会場】令和6年1月22日(月)19時～ 参加者48名(発言者8名、書面回答者15名)
 【高岡会場】令和6年1月30日(火)19時～ 参加者44名(発言者9名、書面回答者16名)

検討項目	ご意見
再編	<p>再編にあたり、ある程度の数の基準は必要だと思うが、それよりも再編のビジョンを明確に打ち出すことが大事。ビジョン策定にあたっては、県立高校だからこそできることを中心に、20年後、30年後も継続的に運営できる仕組みを考えなければならぬ。(同趣旨他10件)</p> <p>どのような学校を作っていくのか、どのような子どもを育てていくのか、どのような高校教育を提供していくのかといったことを一体的に検討してほしい。(同趣旨他1件)</p> <p>高い水準の教育を希望する生徒も多いと思う。教育の質を確実に保てるような高校を作っていたきたい。</p> <p>まちづくりの観点から、教育が産業を支え、学校があることで自治体の活力につながり、地域産業に人材を輩出している。富山の未来を良くする為の教育機関であり、地域に必要な人材を輩出するための機関である。</p> <p>全体では子どもファーストで考えてもらいたい。子ども教育にお金をかけてほしい。</p> <p>令和2年の再編によって、子どもの選択肢の増加や県立学校の魅力の高まりなどの結果はどうだったのか。その考察を踏まえて議論をしてほしい。他県に生徒が流れないよう、内容を重視した再編してほしい。</p> <p>いろいろな案が出ていることを初めて知った。もう少し県民にオープンにした方が良いのではないか。</p>
再編 進め方	<p>全ての高校は「地元にとつて大切」という点では同じ。その観点で考えると再編は進められないので、それ以外の観点から客観的に考えていくことが必要。以前、大きな声をあげたらより意見を尊重されるかのような報道のされ方があり、報道のあり方はこれでいいのかとも思った。</p> <p>首長との意見交換にあった13市町すべてに高校を残してほしいという意見に対し、県教委は首長に予算の負担の覚悟を確認し、覚悟のある市町全てに高校を残してほしい。県教委は、富山、高岡地区に大規模校(7～8学級)と小規模校(3学級以下)の組み合わせを考えればよい。覚悟ある首長は納得し、県教委も負担を各市町に任せ、上記の組み合わせのみに専念して議論できるのではないか。全国的な少子化の中で、少人数学級を求める声は他県からでも上がってくるものが予想される。法改正がなされるまで、首長の覚悟をしつかりと聞き出していただきたい。</p> <p>大規模、中規模、小規模校の役割と様々なタイプの学校を子ども達に提供していくことは大切にしていくが、充実した教育を展開するためには、多くの生徒と教員が必要であり、再編統合はやむをえない判断だと思う。(同趣旨他1件)</p> <p>生徒数が足りないことや財政的に学校維持が難しいということを示して話をしてもらう方が納得がいく。感情面ではなく、通学距離や偏差値、部活動などの観点から考えていかなければ駄目なのではないか。</p> <p>単なる数合わせで減らしていくという、少子化にただ合わせるような形でどんどん進めて行くのはどうかと思う。</p> <p>対象になる学校の生徒の声を聴いて欲しい。また、教職員、保護者、地域の方々、県民、中学生の声を聴いて欲しい。(同趣旨他5件)</p> <p>様々な学習歴や生育歴をもった子どもが増えているので、1学級40人の生徒数は極めて多い。少人数学級となつている高校でも、指導の面で苦しいという教員の声もある。教職員の声をもっと聞いてもらいたい。</p> <p>最後は、将来を見据え、子どもの地区別人数や教職員の数、財政上の様々な観点から決めていくことになるのではないかと思う。</p> <p>再編統合の際は、通学手段の確保も含め、新しい学校に子どもたちが通いたくなくなるような工夫と、手厚い人的・物的支援をお願いしたい。</p>

検討項目	ご意見
	<p>少人数の学校は大規模な学校に比べ一人ひとりがいろいろなことに挑戦できる。中学校は生徒数の多い学校に通っていたが、人が多すぎると、いろいろなことにチャレンジできなかつた。生徒数が少ないので、少人数での授業が受けられる。また、人数が少なくて文理融合のクラスになり、いろいろな考えの人がいて刺激される。</p> <p>小規模校の「デメリット」をどのように補うかを議論しないと小規模校の再編はまぬがれない。</p> <p>小規模校は、生徒一人ひとりに目が行き届くメリットはあるが、教員数も少なくなるため、教科指導等への負担が大きくなる。教員の働き方改革の観点からも、小規模校の設置には慎重であってほしい。</p> <p>「地元だから」や「母校がなくなるのは嫌だから」といったことではなく、将来の子どもたちのためにどうするのがよいかといった観点で考え、一定規模の学校で子どもを育てたいと思う。(同趣旨他2件)</p> <p>クラス数を維持するだけの教員数は確保できるのか。(教員採用試験の倍率減が不安)</p> <p>前回の再編統合により「平均学級数が5.0に回復」とあるが、5.0を基準とすることやそれにこだわる必要性はあるのか。大規模、中規模、小規模をしっかりと定義付けなければ、人によって受け止め方が違い、規模感があまり伝わらないのではないかと。</p> <p>少子化の中、高校再編は意味、致し方ない。「県立高校のあり方に関するアンケート調査」において「高校選択の際に重視すること」の2番目に「通学条件」が挙げられていることや、「学級数が多い学校から少人数の学校までバランスよくあることが望ましい」と生徒や保護者が希望していることが大事なこと。</p> <p>規模の基準を決めるための議論ではなく、学科やコースのあり方を検討し、さらに地域の声を拾うのが先ではないか。結果、統合すべき学校が見えてくると考える。</p> <p>少子化の中、高校再編は喫緊の課題であり、基準を決めなくてはならないのはわかるが、あくまで議論のベースとなる基準をつくるだけで、一つ一つのケースで考えていくべき。(同趣旨他1件)</p> <p>中～大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがあるが、中学校卒業予定者数が減少していく以上、今後の高校再編は避けて通ることはできない。そのため基準は検討会議で出された意見をもとに考えていくのがよい。</p> <p>大小組み合わせの案には得心がいった。ただ、イメージがよくわからない。具体的なイメージがほしい。</p> <p>「バランスよく」と示されているので、学校の設置場所など様々な観点を考慮して再編の検討をしてもらいたい。(同趣旨他5件)</p> <p>周辺地域の小さい学校を残すために大小組み合わせという考えではなく、富山市内にも小規模校をつくるべき。通学時間は大きな考え方だと思う。</p> <p>富山県全体で子どもの数が減っていくとは言っても、中心部と校外では減り方が異なっている。砺波地区では、子どもの選択肢が非常に少ない状況であるため、富山、高岡地区から削り、小さい学校でも存続させる考え方ができないか。(同趣旨他1件)</p> <p>再編基準をつくって学校数を減らすというが、砺波地区は学校数をこれ以上減らしようがない。(同趣旨他2件)</p> <p>私立の高校30%というのは高岡市、富山市において高くなると思っただけで、射水市ではもっと低くなるかと考えている。地元の子が地元の高校に入ることでできるよう望んでいる。</p> <p>教育レベルが低下しているとされている中、定員数が多い学校がある。探究科学を普通科のコースとし、1クラス減でもよい。その分、他の中学生が行くであろう学校のクラスを増やしてほしい。学力層によって選択肢の幅に差があり、不公平と感じる。</p> <p>地域に高校がなくなるとは、地域の衰退につながる。地域にどのような高校を残すのか、地域の活性化を視野に規模論だけでなく柔軟に検討を進めてほしい。</p>
進め方	
基準	
配置	

検討項目	ご意見
配置	<p>進学希望と高校選択の理由について、成績が上がればほびみんな都市部の進学校を目指す。しかし、地元の高校の存続に向けた地元校への進学希望数が話題になる。地元の高校存続のために定員割れを防ぎたいのなら、我が子を行かせるのか。</p> <p>高校選択の際に「自宅からの距離や時間などの通学条件」を重視している生徒・保護者が多い。現在、公共交通機関を利用して通勤しているが、通学時間については乗車時間1時間程度以内が妥当ではないかと感じる。(同趣旨他1件)</p> <p>再編の検討については、ある程度の規模の基準が必要と思われるが、職業系単独校の存在価値や通学のための地理的制約は考慮すべきである。</p>
基準	<p>「生徒が一定の通学時間内にある高校から選択できる」ことと「バランスよく配置するために小規模校から再編する」ことは矛盾しているのではないか。</p> <p>入学志願者が3年連続定員を満たさず今後とも増加の見込みがない場合、再編整備の対象となるとされていても、3年間のうち、1年でも定員を満たせば、再編統合の対象にしないという県もある。こうしたことも基準の例として書き込んでもらいたい。</p> <p>再編の条件を満たしていても、年度によって変動が大きく、需要がないとは言えない。この先の需要という観点をもう少し見見ていただけたらと思う。</p> <p>以前新聞記事で読んだ、定員に満たない学校の生徒に再編に係るアンケートを実施するといった生徒を巻き込むようなことには反対。</p>
対象校	<p>高等支援学校は再編統合の対象となるのか。特別支援学校はこういった会議で議論されることが少ない。障がいを持つ児童が少しずつ増えている状況にあるので、検討してほしい。</p>
改編	<p>学科・コースの検討では、バリエーションが少ない。富山県の柱である菓産業や、今後発展が望まれる観光、アニメ、デジタル技術などが選択肢として盛り込まれるべき。</p> <p>富山県の施策として「観光」を打ち出していく中、次世代の観光を担う人材の育成が重要。「観光」を学習していくことが検討される可能性はあるか。</p> <p>教育の目的は①人格の完成と②国家社会の形成者の育成、このことをまず基本に据えるべきと考える。②については富山県としての産業人材政策との関連で教育のあり方について検討すべきと考える。時代の課題としては(A)情報化(B)国際化(C)環境共生(D)少子高齢化の4つがある。産業人材政策では、生活支援人材の視点が欠けがち、(D)との関連では医療・介護・福祉(Well-being)人材養成について県内高等教育機関整備と関連づけながらしっかりと検討していくべきと考える。</p> <p>学科等の内容や普職の割合については、生徒のニーズを最優先に考えつつ、社会的ニーズも考慮していくことが大切。(同趣旨他3件)</p>
学科・コース	<p>私立高校のほとんどが普通科であり、職業系専門学科で学科・コースの特色を打ち出すのは県立高校ならではと思われる。</p> <p>普通科と専門学科を持つ高校は、(アンケートにある)通学条件や学科・コース選択の多様性など「高校生ファースト」の視点でも、あり方の一つであると思う。</p> <p>商業科は4地区に最低1つは設置されているが、今後の中卒予定者数の急減を踏まえると、商業科が存在しない地区が発生することはやむを得ないのではないか。</p>
国際バリエーション 様々なタイプない	<p>国際バカロレアは世界中の大学に進学する際に使える入学資格を得ることが眼目である。そうした進路が可能な生徒は、保護者の資金力・教育力も高いことが想定される。既に恵まれた生徒を抽出して、その教育環境を莫大な公費を投下してさらに良いものにするのが公教育の正しい姿であるとは到底思えない。</p>
高大	<p>県立大学の附属高校をつくることも視野に入れ考えることはできないか。県外からの生徒募集もできるのではないか。</p>

ご意見	
検討項目	小規模校にオンラインでの授業を行っていけないか。
オンライン	「ICTを活用したオンライン授業」が提案されているが、クラス全体の表情を見たり、机間巡視をして手の進み具合を見たりして、対面で反応を受け止めながら授業は進められるべき。
運営	再編するのではなく、学校間の交流や合同のクラブ活動などをリンクさせる方法もある。これだけでなくはならないという方向はないと思う。
予算	富山県はもっと教育費の予算を拡充すべき。教員の確保や処遇改善に力をいれるべき。
欠員	高校の欠員が、「魅力がない」として高校側だけの責任とされる。いじめ・不登校が増える中、小中段階の育ち・学びの中で全日制に進むことを諦め、広域通信制などに大きく流れているのではないか。
進県学外	一定数の子どもが石川県の高校に進学している現状がある。これまでの再編により南砺市の子どもの選択肢が少なくなっていることや高校の魅力が薄らいでいることなどにより、県外進学といった選択肢が生まれるのではないかと思っている。
その他	<p>県立高校だからこそできることを考えるときには、私立との役割分担を考えていくことも必要。私立にしかできないこともある。</p> <p>(募集定員の基準となる) 公私比率を変えることはできないのか。</p> <p>生徒も保護者も県立優先の考えが薄れている。きっかけがどうか分らないが、S特進、特進等、私立も頑張ることができる、国の補助等で県立と私立の経済的負担の差が小さくなったという考えが浸透しているように思う。</p> <p>進路決定の時期が近づくと、ようやく真剣に考えられるようになり、高校へ進学して学習のやり直しがしたいと希望する生徒が出てくる。しかし、県立高校ではなかなか対応できず、私立高校を選ぶ生徒が多いのではないか。</p> <p>県立は減っているが、私立は通信も含め増えている。</p>
交通	生徒の通学に不便がないよう、交通機関の便を良くしてもらいたい。
発言	学校数が減った際、スクールバスといった通学手段を増やすなど、きめ細かい対応をしてもらいたい。
少人数	本日のフォーラムでは教育長だけが答弁、コメントされていたが、検討会議委員からも発言してもらいたかった。
選抜	学級規模は小さくしてほしい。40人×6学級の240人より、30人×8学級の240人の学校の方が行き届いた教育ができる。(同趣旨他4件)
魅力	入試制度で出願後に出願校の変更(他県の例)はできないか。
	南砺平高校では、自主制作の映画公開などをしており、こうした生徒たちの活動や小さな学校でも特色ある活動を行っていることなどを広く知ってもらえるといいのではないか。
	郡部の高校の定員割れや定員ギリギリの出願数について、ハイスクールチェックなどマスコミとのコラボも必要ではないか。都市部への憧れがある。

令和5年度 第2回富山県公立高等学校連絡会議の開催結果

日時：令和6年1月24日(水)10:00～11:20

場所：富山県農協会館 903号室

出席者：経営管理部次長（座長）、私学関係者4名、県教育委員会4名、学術振興課長、中学校長1名 計11名

（出席者からの主な発言・意見等）

※ 今回、中学校長会から1名出席いただき、公私の魅力向上に向けた取組みの推進について意見交換を行った。

1 公私の魅力向上に向けた取組みの推進

（1）県内高校の魅力について

- ・ 中学では高校側からの資料や、中学校長会で作成している「進路のしおり」等を活用して各高校の特徴を伝えている。
- ・ どんなことに魅力を感じるかは、生徒それぞれ視点は異なるが、制服や生活のきまりなど生徒目線でのことに興味・関心を持つ生徒は多い。
- ・ 資料や説明で高校に興味・関心を持った生徒は、自分でHP等で調べている。
- ・ 写真等を用いて、生徒が知りたいと思う高校生活がイメージできるような生徒目線の分かりやすい資料が良い。

（2）県外に進学する生徒について

- ・ 部活動が理由の県外進学について、必ずしも生徒への連絡の時期が早いか遅いかで進路が左右されるわけではない。
- ・ 生徒が県外進学を考えている場合、メリット・デメリットや本人の性格等を考慮し、本人・保護者の相談に乗っている。
- ・ 広域通信制への進学理由については、集団で生活することや決められた時間に従って行動するという学校生活のリズムが自分に合わないなどが多くなっている。したがって、他校との併願ではなく、広域通信制を第一希望としている。

(3) その他

- ・ 中学校では、1年生から計画的に進路指導を行っている。
- ・ 自分の進路について、より意識を高められるよう、2年生の段階で、工業・商業など高校の学科についてより具体的な学びができるような取り組みを行っており、今後広めていきたい。
- ・ 3年生での進路指導では、①高校の様々な情報を提供する。②個々の生徒の特性や人柄などを踏まえて、本人、保護者と話し合うことを通して、適切な進路選択ができるよう支援している。
- ・ 三者面談等では、本人・保護者の思いにほぼ相違はなく、保護者の思いが進路に影響することは少ない。
- ・ 高校から推薦で声をかけてもらう際には、個々の生徒の良さをしっかりと判断し、中学校側及び生徒・保護者に伝えることで、進路決定の判断材料の一つになると考えている。
- ・ 中学校側と高校側との意見交換を継続して行っていきたい。

(4) 今後の課題や取り組みについて

- ・ 県立推薦入試における県内私立高校の部活動の対応について、取り決められている留意事項を周知徹底して欲しい。
- ・ 中学校での部活動が地域移行にすすむと、地域のクラブ活動に対して、県外からのスカウティングが増加することが懸念される。
- ・ 県外進学が進む中、県内高校を選択してもらえよう、魅力向上に努めることが急務である。

2 公私比率のあり方

- ・ 現在の公私比率は令和7年度まで合意しているもの。今後は、定員未充足が検討課題となるのではないか。
- ・ 公私比率の是非について、これまでの考え方を維持することは難しいと考えている。新しい考え方が必要である。
- ・ 公私比率は形骸化されている。大まかなものでも良い。
- ・ 経常費助成の増加など経営の安定化を図ることができれば、比率は無くても良い。県全体の魅力向上につながるのではないか。
- ・ 新しいルールが必要だと思いが、具体的な内容については、今後準備を進めていきたい。
- ・ 地区ごとに公私比率を決めることについては、メリットやデメリットがある。
- ・ 新年度は県立高校再編も念頭に置きながら、公私比率が必要かどうかも含めて考えていかなければならない。